

国土交通省 北陸地方整備局
配付資料

配付日時	平成30年2月27日
扱い	本紙配付を以て解禁

平成29年度 第4回 北陸地方整備局 新技術活用評価会議を開催します ～公共事業等の新たな技術の活用と普及にむけて～

北陸地方整備局では、公共工事等への有用な新技術の活用促進を図ることを目的として、「平成29年度 第4回 北陸地方整備局 新技術活用評価会議」を下記のとおり開催することとしましたのでお知らせします。なお、評価する案件は下記に示す4工法となっています。

- 開催日時 平成30年3月1日（木） 13:30～15:30
- 開催場所 北陸地方整備局 4F 合同会議室
（新潟市中央区美咲町1丁目1番1号（新潟美咲合同庁舎1号館））
- 議題 事後評価について
 - シャックル連結式大型連節ブロック HK-100025-V
 - 南濃式覆土（客土）ブロック工法 CB-090018-V
 - 共和式階段ブロック CB-070043-V
 - 安全管理サポートシステム HR-080009-V


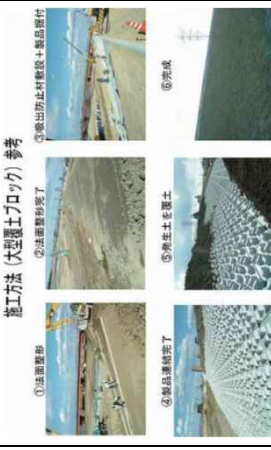

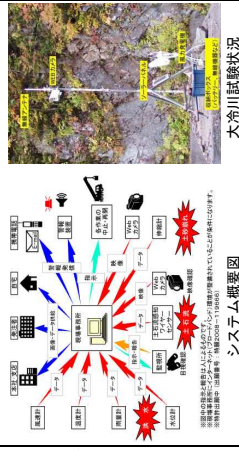
※ 詳しくは、NETISホームページをご覧ください。
（NETIS HP：<http://www.netis.mlit.go.jp/NetisRev/NewIndex.asp>）
- 留意事項
 - ①報道関係者は、腕章又はネームプレート等（報道関係者と判断できるもの）の着用を必ずお願い致します。
 - ②取材・撮影は評価会議冒頭の「座長挨拶」までとし、審議中の取材・撮影はご遠慮願います。
- その他 評価会議における評価結果および活用促進技術の指定の結果は、会議後必要な手続きを経て、後日上記HPに公表します。

【同時発表記者クラブ】
新潟、富山、石川県内
その他・専門紙



問い合わせ先
国土交通省 北陸地方整備局
TEL：025-280-8880（代表）
企画部 施工企画課長 堤（内線 3451）

■平成29年度第4回 新技術評価会議 審議技術一覧表(事後評価)

No.	技術名称	開発年	登録年度	登録番号	分類	申請従来技術	技術概要	説明写真	開発会社 (会社所在地)
事後評価 1	シャックル連結式 大型運節ブロック	1999	2010	HK-100025-V	河川海岸 — 多自然型護岸工 — ブロック積(張)工	ブロック積(張)工	<p>本技術は、護岸用大型運節ブロックの連結をシャックルで連結する工法であり、従来は、鋼線による連結で対応していた。</p> <p>本技術の活用により、ブロックの連結が容易となることから施工性が向上し、工期の短縮及び経済性の向上が期待できる。</p> <p>また、1箇所単位で補修が可能であるため、維持管理面の効率化も期待できる。</p>	 <p>設置運節状況</p> <p>施工状況</p>	株式会社 旭ダンケ (旭川市東鷹栖東3条4丁目2163)
事後評価 2	南濃式覆土(密土)ブロック工法	2005	2009	CB-0900118-V	河川海岸 — 多自然型護岸工 — ブロック積(張)工	運節ブロック張り工+覆土	<p>本技術は、覆土(密土)保持の目的で、突起や格子状の土留めを設けたコンクリート二次製品であり、製品はシリーズ化されており、現場の状況に合わせて致種類のブロックから単体または組み合わせを選ぶことで、現場の景観や目的に合わせて護岸構築を可能としたものである。</p> <p>本技術の活用により、材料費の削減及び施工の短縮が期待できる。</p>	 <p>施工方法(大型覆土ブロック)参考</p>	南濃コンクリート工業株式会社 (岐阜県海津市南濃町上野河戸1055)
事後評価 3	共和式階段ブロック	2005	2008	CB-070043-V	河川海岸 — 多自然型護岸工 — ブロック積(張)工	コンクリート工 (現場打ち階段工)	<p>本技術は、従来現場打ち等で構築していた護岸や公園施設等の階段工をフレキシブルとしたもので、製品には天然石張り風のものや、礫石等の様々なバリエーションがある。また、製品の原材料にはスラック等のリサイクル材も使用可能で、施工性が良く、工期短縮が期待できる。</p>	 <p>← 水ステップブロック(礫石)</p> <p>↑ 竹</p> <p>← ウェーブステップ</p>	共和コンクリート工業株式会社 (東京都豊島区南大塚3-10-10 日本生命南大塚ビル4F)
事後評価 4	安全管理サポートシステム	2008	2008	HR-080009-V	砂防工 — 施工管理 — 施工管理 — その他	自動観測システム	<p>本技術は、河川、砂防工事などにおいて安全管理に必要な映像、雨量、水位などの情報をリアルタイムに記録し離れた場所から情報確認や出力ができるシステムである。</p> <p>本技術の活用により、経済性・施工性の向上及び工期の短縮が期待できる。</p>	 <p>システム概要図</p> <p>大赤川試験状況</p>	技研興業株式会社 (新潟市中央区西堀通7番町1555 日生第5ビル4F)